

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年1月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2024年1月11日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 133社
- 回収率 66.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より2.5ポイント改善の▲20.3となった。

2017年9月以来77ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲25.6、当月と比べ5.3ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	先行き見通し 2024年2月～ 2024年4月
業況	▲14.6	▲14.0	▲18.1	▲19.7	▲22.8	▲20.3	▲25.6
売上	5.1	▲0.7	▲5.5	▲3.9	▲13.4	▲5.3	▲15.8
採算	▲18.2	▲12.6	▲17.3	▲17.3	▲24.4	▲21.1	▲24.1
仕入単価	▲69.3	▲63.7	▲55.1	▲60.7	▲59.8	▲57.9	▲50.4
販売単価	33.6	27.5	24.4	26.7	26.0	27.0	17.3
従業員	35.0	34.8	37.0	32.3	33.1	33.0	30.0
資金繰り	▲9.5	▲9.6	▲9.5	▲8.7	▲8.7	▲12.0	▲17.3

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	先行き見通し 2024年2月～ 2024年4月
建設	▲21.8	▲33.3	▲20.0	▲37.9	▲31.0	▲31.0	▲34.5
製造	▲15.7	▲3.5	▲27.6	▲21.2	▲23.4	▲15.6	▲18.7
卸売	▲10.8	▲10.0	▲6.7	▲3.4	▲16.6	▲17.3	▲20.7
小売	▲18.2	▲19.1	▲25.0	▲15.8	▲25.0	▲27.3	▲31.8
サービス	▲4.3	0.0	▲11.1	▲17.7	▲16.7	▲9.5	▲23.8

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革による残業時間規制の実施が目前に迫っているが、職人不足は改善されず必ずしも準備万端の状況で臨めないため、来年度の利益見通しには大いに不安がある。（総合工事）</li> <li>・意欲的な人材の確保が難しくなっている。（設備・その他）</li> <li>・新築住宅の受注難が経営上の大きな課題である。住宅購入の決め手は、結婚や出産による家族の増加など若い世代が中心でありモデル住宅見学会・SNS などの情報発信によっていかに当社の魅力ある住宅を購買意欲の高い若い世代に知ってもらうことが経営戦略上のキーポイントとなるため、営業力の強化をもって厳しい現況を打開していく次第。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年秋、農産物の不作から規格外の野菜を仕入れ、加工・生鮮で販売した結果が売上の増加となった。今後、物流問題による原材料等価格上昇、販売価格の転嫁で消費者の買い控えと懸念材料が多い。（食料品）</li> <li>・社員の高齢化(技術の継承の不安)。（印刷・出版）</li> <li>・リブランディングを進めており、昨年 2 月に商品をリニューアルして大幅な価格改定も行った。そのため、新たな販路開拓に取り組んでいるが結果が出るのももう少し時間がかかりそうである。（家具・木材）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な消費の低迷で売上は苦戦しているが、物価上昇に伴い売上は昨対を少々上回った。電帳法の対応で業務負担が増えているが、人材を確保したくとも応募がなく、人材不足に直面している。（繊維・衣服等）</li> <li>・賃上げを計画しているがどの位の幅で行うか検討中。（飲食料品）</li> <li>・一部仕入商品(電線ケーブル)で納期が遅延し深刻な問題となっている。（機械鋼材）</li> <li>・灯油の仕入値は小幅に上下を繰り返している状況が続いており販売価格も高値で推移しているため、節約志向が高まり、使用量が減少し、売上減少となっている。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 6 年 1 月ウインターセールに入ったが来店客数が毎年減っている。バーゲンセールを見直していく時期になったのかもしれない。売上が厳しい。来店客数を増やすことを考えることが重要になる。(店舗の取扱い商品の)オリジナリティーを打ち出していく。（衣服身回品）</li> <li>・増収傾向が鈍化し今後は止まることが見込まれる。原材料・光熱費・人件費の上昇継続が見込まれることで採算考慮し、再値上げを数カ月後予定。今回の値上げにより売上数量減少となる可能性あるが、量よりも収益重視のための行動。人材不足が続いておりアルバイト・派遣社員で繋いでいるが効率化による人件費抑制が急務。（食料品）</li> <li>・年末年始から観光客の需要でレンタカー売上や燃料出荷は好調。灯油については全道的な値上がりもあり、販売益が上向きであるが店頭ガソリン価格については、補助金の意味合いを考えず安値乱売が散見される。（その他）</li> <li>・新車の販売が振るわず、営業費の増加もあり採算は悪化している。来年度は賃上げを考えているが利益が上がらないと今の状況では厳しい。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーコストの上昇と人手不足。年始からの天災・事故が今後どのように影響するか心配。（ホテル・旅館）</li> <li>・定年退職者の増加に伴い、新卒者を計画的に採用しているが技術の承継が間に合わない状況にある。（その他）</li> <li>・忘新年会がコロナ前と同じ様に出来るようになり売上は増加している。（飲食）</li> <li>・損益面では大幅に落ち込んだコロナ時期以降は着実に上向いてきている。従業員不足や返済負担増により資金難で維持更新の設備投資でさえ思うようにできないことは事業の継続上苦しい。コストダウンも重要であるが、春期の賃金改定も意識しなければならぬ。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI 0.1 ポイント悪化、仕入単価 DI 3.4 ポイント悪化、販売単価 DI 3.5 ポイント悪化、資金 DI 3.5 ポイント改善、従業員 DI 3.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、設備・その他 1 ポイント悪化、総合工事横ばい、建築業 12 ポイント改善となった。冬期のコスト増加に伴い採算性低下に苦慮との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI 23.0 ポイント改善、採算 DI 17.7 ポイント改善、仕入単価 DI 9.8 ポイント改善、販売単価 DI 8.4 ポイント悪化、資金 DI 9.4 ポイント悪化、従業員 DI 8.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.8 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 11 ポイント悪化、印刷・出版 20 ポイント、家具・木材 13 ポイント、金属窯業他 25 ポイント改善となった。4 月より製品の値上げが決まっており、3 月までは駆け込み需要が見込まれるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI 2.8 ポイント改善、採算 DI 13.8 ポイント悪化、仕入単価 DI 8.4 ポイント改善、販売単価 DI 4.5 ポイント改善、資金 DI 3.1 ポイント改善、従業員 DI 0.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.7 ポイント悪化となった。業種別ではその他 25 ポイント改善、機械鋼材横ばい、繊維・衣服等 29 ポイント、食料品 5 ポイント悪化となった。豪雪によりビニールハウスの倒壊が起きたとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI 9.6 ポイント改善、採算 DI 2.2 ポイント改善、仕入単価 DI 7.3 ポイント改善、販売単価 DI 5.9 ポイント改善、資金 DI 4.1 ポイント悪化、従業員 DI 0.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 2.3 ポイント悪化となった。業種別では、その他 13 ポイント改善、衣料品、自動車横ばい、食料品 17 ポイント悪化となった。一品単価は前年超えが続いているが、上昇率が鈍化している。それに伴い収益の伸びも鈍い。今後の客数と販売点数の確保が課題との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI 1.6 ポイント悪化、採算 DI 13.4 ポイント改善、仕入単価 DI 17.5 ポイント悪化、販売単価 DI 13.5 ポイント改善、資金 DI 11.2 ポイント悪化、従業員 DI 11.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.2 ポイント改善となった。業種別では、その他 8 ポイント、運送 25 ポイント悪化、理美容・クリーニング、整備業横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、飲食 25 ポイント改善となった。原材料上昇と売上減少との声も寄せられている。</p>